

大学等名 明治薬科大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

薬学データサイエンスセンター教育・研究委員会

(責任者名) 植沢芳広

(役職名) 教授

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	プログラムの構成科目は全て全学科1年生の必修科目であり、休学などの事情のある者を除いて全ての1年生が履修する。2024年度は情報処理演習の履修者と修得者がそれぞれ463人と420人、薬の科学実習Ⅰでは423人と418人であり、ここからプログラムの履修者と修得者はそれぞれ423人と418人となる。プログラム実施初年度において、1年生全体におけるプログラムの履修率は100%、それに対する修得率は98.8%となる。
学修成果	2024年がプログラムの実施初年度であり、学修の成果は申請の時点では判断できない。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	プログラム実施初年度の2024年度のアンケートでは、どちらの演習も大きくまとめると、予習や実施では労力がかったが、多くのことが学べてやりがいがあった、ということであった。修得者における成績の分布はS、A、B、Cがそれぞれ12.0%、60.8%、23.1%、3.8%であり、おおむね良好だったと言えるが、わずかながらも理解を容易には進められない履修者がいたとも言える。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	定量的に推奨度を計算することは難しいが、学生アンケートでは、内容が多様で興味深かった、新しい知識を得られたなどと言った肯定的な意見が、内容が多く負担であったと言った否定的な意見よりも多く、総合すると「推奨する」という意見になると考えられる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	履修者数および履修率は最良の状態にあると考えられ、現在の、ほぼ自動的にプログラムの履修を行う制度を維持する。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	現在、本学を卒業したプログラム修了者はいない。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	産業界においては、生成AIではなにができるのか、ということを出たばかりの若い社会人から知りたいという要望はあるだろう。そのために常に、それを含めた最新の知識と利用スキルをプログラムの構成科目で教えられるように内容のアップデートを随時行うべきである。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	専門系のソフトウェアを使って分子生物学や薬剤の知識を調べ、可視化することで興味を喚起し、オフィスソフトウェアの使い方に関しても各自で調べたことを作文やプレゼンの題材としている。そのため単にソフトウェアの使用法を練習するだけでなく、効率的に科学技術研究やデスクワークなどを行うと言った目的を意識し広い視野を保ちながら、作業の内容を自分から探索することで、単なる労務作業ではなく幅広い領域において社会的意味のある作業であることを自覚できるようにしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	対象は薬学部の学生であり必ずしも情報工学、情報科学の専門知識を必要としないことから、計算機の動作原理や生成AIのしくみに踏み込むことはせず、いかに意味のある使い方をするか、いかに共同作業を効率的に行うか、注意点は何か、に重点を置いて実施している。その重点項目に関連するようなICT技術の進歩は積極的に科目の内容に取り入れ、毎年内容のアップデートを行っている。さらに、今後は薬物や薬物治療に関するテーマで数理・データサイエンスや生成AIがどのように活用されているか具体的な研究事例も含め、薬学生にとってもわかりやすい内容を随時検討していく。